

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	児童福祉論(Child welfare A (Outline))	授業コード	E041801
担当教員名	鍋田 耕作		
配当学年	2	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	人間力の育成に必要な科目ですので、必ず受講して下さい。担任制の授業です。		
受講心得	聴くこと、見ること、調べること、そして、真剣に考え取り組むことを心がけてください。		
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編 新・社会福祉士養成講座15『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』第4版 中央法規出版		
参考文献及び指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編 新・社会福祉士養成講座15『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』 第4版中央法規出版		
関連科目	社会福祉原論、相談援助の基盤と専門職、相談援助の理論と方法、社会保障論など		

授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ①児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。 ②児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する ③児童の権利について理解する。 ④相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。
授業の概要	児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解を深めるとともに、児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の権利、児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について考察を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：子どもの権利とは？ 「生きる」とはどのようなことなのか？について、「子どもの権利」という視点から考察を深めていきます。また、「子ども」の「最善の利益」とは何か？についても考察していきます。	
第2週：現代社会と子ども家庭①子どもの育ち、子育てをめぐる諸相 児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要と実態について現状を把握していきます。	配布資料
第3週：現代社会と子ども家庭②子どもの育ち、子育てをめぐる社会の変容 児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要と実態について要因・背景の理解を深めていきます。	配布資料
第4週：現代社会と子ども家庭③次世代育成支援施策等の展開とその影響 児童・家庭を取り巻く環境・ニーズの変化に対する政策の展開について考察を深めていきます。	配布資料
第5週：現代社会と子ども家庭の課題①子育てをめぐる現状 少子化の現状と要因について理解を深めていきます。特に背景となる雇用形態や働き方についてワーク・ライフ・バランスの視点から考察を深めていきます。	配布資料
第6週：現代社会と子ども家庭の課題②子育てをめぐる課題の要因 少子化の現状と要因について理解を深めていきます。特に背景となる雇用形態や働き方についてワーク・ライフ・バランスの視点から考察を深めていきます。	配布資料
第7週：福祉原理と子ども家庭福祉の理念①児童の定義、児童家庭福祉の理念 「子ども」とは何か？児童家庭福祉とは何か？について児童福祉法や日本国憲法、権利条約等の理解を深めていきます。	配布資料
第8週：福祉原理と子ども家庭福祉の理念②子どもと家庭の権利保障 「子ども」という存在がどのように理解されていたのかなどを権利保障の歩みから考察を深めていきます。	配布資料
第9週：子ども家庭福祉制度の発展①日本の児童・家庭福祉の歴史 日本における児童・家庭福祉の法制度がどのように形成されてきたのかを歴史的背景に基づきながら理解を深めていきます。	配布資料
第10週：子ども家庭福祉制度の発展②諸国の児童・家庭福祉の歴史 諸国における児童・家庭福祉の法制度がどのように形成されてきたのかを歴史的背景に基づきながら理解を深めていきます。	配布資料

第11週：子ども家庭福祉にかかわる法制度		
子ども家庭福祉の法体系について、具体的に法の理念や目的等について理解を深めていきます。		配布資料
第12週：子ども家庭福祉制度における組織及び団体、専門職の役割と実際		
児童福祉サービスの体系、児童福祉行政の機関、児童福祉施設等、児童福祉の実施体制等について学び、各種の福祉サービスが計画的・総合的に推進されていることを理解する。		配布資料
第13週：子ども家庭福祉制度における専門職の役割と実際		
児童家庭福祉にかかわる行政機関および民間の児童福祉施設における専門職の役割と実際について理解を深めていきます。		配布資料
第14週：子ども家庭福祉制度における他職種連携・ネットワーキングと実際：児童虐待		
児童虐待の対応を例に挙げ、他職種連携・ネットワーキングの実際について理解を深めていきます。		配布資料
第15週：子ども家庭福祉制度における他職種連携・ネットワーキングと実際：DV		
ドメスティック・バイオレンス(DV)の対応を例に挙げ、他職種連携・ネットワーキングの実際について理解を深めていきます。		配布資料
第16週：期末試験		
論述式(90分)の試験を実施します。 ※出題方法等に変更場合があります。期末試験の詳細は第15週目にお伝えします。		配布資料
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	
【知識・理解】	①児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要②児童・家庭福祉制度の発展過程 ③児童の権利④児童家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解している
【技能・表現・コミュニケーション】	現代社会における子ども家庭が置かれている状況および課題について説明することができる。
【思考・判断・創造】	現代社会における子ども家庭が置かれている状況および課題について考察することができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	80点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点			
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	